

シーハットカップ 2022

新型コロナウイルス（COVID-19）感染防止対策マニュアル

1. 目的

シーハットカップ 2022 大会の開催・運営において、新型コロナウイルス感染防止対策に努めるために以下のマニュアルを定める。

2. 指針

このマニュアルに基づき、会場に来場するすべての人（選手、スタッフ、大会関係者、メディア他）の新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し感染者の発生を防止する。

3. 大会開催の条件

次の条件を満たすことができれば開催可能とする。

- (1) 長崎県において新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言が発出されていないこと。
- (2) 大会運営において、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を遵守できること。
- (3) 会場施設、長崎県山岳・スポーツライミング連盟の同意が得られること。

4. 新型コロナウイルス感染防止対策

新型コロナウイルス感染症の最新情報、留意事項を確認し、次の事項に基づき新型コロナウイルス感染症防止対策を具体的に定める。

4-1. 感染防止対策

(1) 大会概要

シーハットカップ 2022 開催実施要項のとおり。

- ・タイムスケジュールは 8 時間以内とする。
- ・参加選手は最大 120 名程度とする。また、会場入場者数は、大村市等が発信するイベント開催制限等により決定する。
- ・会場入場者数に基づいて、選手、スタッフ、大会関係者、メディアの入場人数を定める。

(2) 会場計画

- ・ 3密防止対策を実行できる会場レイアウト、動線を確保する。
- ・ 会場入場者（選手、スタッフ、大会関係者、メディア他）の距離はできるだけ 1m 程度を確保できるようにする。必要に応じて足元への目印を設置する。
- ・ 競技エリア、アイソレーション（ウォームアップ）が、密閉空間とならないよう十分換気を行う。換気設備は常時運転とし、窓、ドアを適切に開放し吸気と排気が一定方向になるようにする。

・受付等、人と人が対面する場所は、パーテーション（アクリル板等）設置、またはフェイスシールドを装着する。

・感染防止レイアウト、動線については、会場サイン等で明確にする。

（3）装備、備品の準備

感染防止として消毒液（アルコール vol170%～85%が望ましい）、石鹼（ポンプ式が望ましい）、マスク、体温計（非接触）、ビニール手袋、アルコールウエットティッシュ、フェイスシールドなどを必要数準備する。来場予定者にはマスク、タオルの持参を求める。

（4）競技ロープ

選手は個人ロープ（※注1）を持参し使用することとするが、持参できない場合は主催者で準備する競技用ロープ（※注2）を使用する。

※注1. ロープは長さ30m以上、呼び径9.0mm～10.0mm（IF基準）とする。JMSCA COVID-19大会開催運営ガイドライン4.（4）「競技ロープの持参」の基準を遵守すること。

※注2. 競技前にアルコール消毒（アルコール濃度70～80%）を行ったロープを使用するため、高濃度アルコールを経口及び気道摂取するリスク、アレルギー反応などのリスクがある。また、個人ロープと比べCOVID-19の感染リスクは高いと思われる。

（5）手洗い、消毒体制

・手洗い場に石鹼を用意し、「手洗い30秒以上」等の掲示をする。

・手洗い後に手を拭くため原則、参加者にマイタオルの持参を求める。

・消毒剤（アルコール等）を会場入り口、他必要箇所に設置し、こまめに手洗い、手指消毒を行うよう呼びかける。

・感染リスクが高い箇所として、ドアノブ、机、椅子など不特定多数の利用者が触れるものは適時消毒する。

・競技に使用したデバイスなどは、各ラウンド後に消毒する。

（6）健康管理

・大会来場者予定者（選手、スタッフ、大会関係者、メディア他）に、事前健康チェック表に基づく健康チェック（体温測定体温測定、誓約書、問診）の協力を求める。また、大会当日の健康チェック（体温測定体温測定、問診）を実施する。

・選手、スタッフは健康管理表等を利用して健康観察を実施すること。

・選手、スタッフは、感染者との接触が確認された場合はすみやかに所轄保健所・実行委員会へ連絡し、当日の来場は行わないものとする。

・大会来場者（観戦者含む）は、大会後2週間以内に新型コロナ感染症に感染した場合、発症後速やかに大会主催者に連絡すること。

（7）感染者発生への対応

・新型コロナウイルス感染症の感染が発症した場合の対応（連絡体制、他）を整える。大会後2週間以内に会場入場者に感染が発症した場合、大村市、県央保健所、会場来場者に速やかに連絡、報告する。

4-2. 大会要項

要項には、通常の大会概要に加え新型コロナウイルス感染症防止対策（注意喚起、健康チェック、遵守事項）を明記する。また、大会要項に変更、追加がある場合随時更新する。

4-3. 大会準備

大会準備に関わる会議、会場設営においてもマスク着用、3密防止、手の消毒など新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底する。

4-4. 開催・運営時の対策

会場入場者は、感染防止マニュアルに従い、マスクの着用と3密防止、手の消毒など新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底する。また、高温・高湿時は熱中症対策として Social Distance を保って適宜マスクの着脱、水分の補給を行うなど注意を要する。なお、選手は競技中マスクを外して競技することができる。

（1）受付（選手、スタッフ等）

- ・事前健康チェック（問診票）及び誓約書を提出してもらう。
- ・当日、健康チェックを実施（問診票：体温測定、問診）する。
- ・入場者がマスクを装着していること確認する。
- ・リストバンドを配布するので、大会終了まで着用し、廃棄しないこと。
- ・緊急時の連絡体制として参加者の連絡先を把握する。
- ・接触確認アプリ COCOA の登録を推奨する。

（2）入場禁止

次の症状、状況にあるとき会場への入場を原則禁止する。

- ・事前チェックにおいて、発熱、咳、倦怠感など症状が続いている場合。
- ・当日の健康チェックにおいて 37.5℃以上の発熱がある場合。
- ・家族や身近な人に新型コロナウイルス感染症の感染が疑われる方がいる場合。
- ・2週間以内に、渡航禁止地域に渡航したことがある場合。

(3) 飲食（会場内）

- ・スタッフ、関係者の飲食は、決められた場所で感染防止（3密防止、会話を控える）のもと行う。
- ・飲食物を手にする前に、手洗い、消毒を行うよう呼びかける。

(4) 観戦（観戦者）

- ・観客入場の場合は、住所、氏名、連絡先、問診票・誓約書の提出と体温確認（非接触）を行い、リストバンドを配布するので大会終了まで着用し廃棄しないこと。37.5℃以上の場合、入場を禁止する。
- ・観客へのマスクの着用徹底と注意事項の掲示、呼びかけを行う。マスクの着用がない場合は入場を禁止する。
- ・大声での声援は控えること。

(5) 換気

- ・4-1. (2) 会場計画による。

(6) ゴミの廃棄

- ・ゴミの廃棄は、開催施設の方針に従う。
- ・マスク、鼻水、唾液など体液が付着したゴミは、ビニール袋に入れて密封し廃棄する。
- ・選手、観客のゴミは、持ち帰りとする。

(7) 競技

- ・会場計画に基づいてアイソレーション（ウォームアップゾーン）、トランジット、コールゾーン、競技エリアの設置を行う。大会実行委員長、審判長は安全、感染防止対策等に問題ないか確認する。
- ・競技ルートは、予選など選手が同時に競技する場合、密にならないようルートセットする。
- ・選手は、各自マットや椅子の感染防止としてタオルを上において使用する。タオルは選手が用意する。
- ・プレイヤー、審判はマスクを装着して行う。
- ・ラウンド終了後、頻繁に触れる箇所（ドア、椅子、トイレなど）やデバイス（ビレイ）はアルコールまたは消毒剤で洗浄する。
- ・公式掲示板（オフィシャルボード）、はインターネット上で行う。

公式掲示板のQRコード



<http://www.octp-net.ne.jp/~masaharu/~masaharu/newpage42.html>

(8) 装備

- ・チョークは、液体チョークを推奨する。

(9) メディア

- ・取材、撮影は最小限にする。

(10)) 式典 (セレモニー)

式典 (セレモニー) は、原則表彰式のみとし、開会式等は行わない。

- ・表彰式では選手は、マスクを着用する。
- ・プレゼンターは、マスクを着用する。
- ・表彰状、メダル、他賞品は選手がトレイから直接受け取る。(トロフィーは手渡し)
- ・握手、抱擁など禁止とする。

(11) 会場管理

- ・新型コロナウイルス感染症対策の注意喚起 (手洗い・消毒、マスク着用、3密防止) として表示、呼びかけを徹底する。
- ・大会安全管理責任者または大会実行委員長は、競技中新型コロナウイルス感染症防止対策の実施内容が守られているかを管理する。

(12) 大会スタッフ

大会スタッフは、新型コロナウイルス感染による重症化を防止するため、持病 (下記参照) を持っていないこととする。

- ・持病：糖尿病、心不全、呼吸器疾患、透析を受けている、免疫抑制剤や抗がん剤を用いているなど。

(13) 大会にて新型コロナウイルス感染症者が発生した場合、緊急時体制に基づいて対応する。

5. その他

(1) 移動ログについて

スタッフは自宅から会場までの移動交通機関を実行委員会より依頼があった場合提出する。

(2) アルコールによる手指消毒においてアレルギーがある場合は、石鹼等による手洗いを定期的に行う。

<参考資料>

・公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会（JIMSCA）大会開催・運営 新型コロナウイルス（COVID-19）感染防止ガイドライン（令和2年10月）ほか